

やめよ! 徳山ダム

徳山ダム建設中止を求める会通信
No. 77 (2008. 5. 13)
事務局 TEL/FAX 0584-78-4119
大垣市田町1-20-1 近藤方

徳山ダム「本格運用」とは言うけれど ～「問題」は解決せず、さらに発生し続ける～

2006年9月25日、かなり強引に開始した試験湛水。予定では、昨年10月末にはほぼ満水となり、3月に試験放流する予定でした。が、なかなか貯まらず、雪も少なく… 4月21日ようやくTP 401mとなり、22日午前7時に試験放流が開始されました。

5月5日未明にTP 391m (洪水期満水位)にまで落とし、「試験放流完了=本格運用」となりました。ただ、どの新聞記事にも書かれているように、新規利水・発電は、施設がないから、全く機能しません(「横山ダムのかんがい容量の振り替え」というのは「新規」利水ではない)。また、法的には「2011年完成」です(この法的手続き=木曾川水系フルプラン一部変更の閣議決定は、5月12日時点で「まだ」です)。

完成式も出来ない「祝福されざる徳山ダム」です。歴史ある村を、アンブレラ種であり絶滅危惧種1B類であるイヌワシ・クマタカの聖地を水に沈めて、何の恩恵を得たのでしょうか?

これから償還していかねばならない「不要な水の代金=1500億円」。岐阜県ではまともな企業会計が「ない」上にユーザーも不確定なので、「一般会計(河川課)からの水機構への直払い」で約540億円ほどを償還していくというのです(他の利水者にはない「珍例」。ただし岐阜県では岩屋ダムに続いて「法の予定しないところ」を繰り返す、悪質です)。

そして「徳山ダムの有効利用」として、長良川に徳山ダムの水を流すというトンデモ計画に890億円をかける、というのです。1994年渇水(既往最大渇水。生起確率は算出不能と正式に答弁しています)と同等も渇水の際に「河川環境被害を軽減するため」だそうです。しかし1994年渇水での「被害」は木曾川の馬飼地点で流量ゼロになったとき(この状態、水利権融通の話合いが纏まった途端に解消)の一時的なもので、その後回復しています。長良川河口堰については「ヤマトシジミが打撃を被るのはやむをえない。正当な補償をした」と言い、いつ起こるのか分からない異常渇水時に木曾川のヤマトシジミに”優しく”するために890億円の65%をかける、おかしくはないでしょうか? さらに長良川には1994年渇水の際の「被害らしきものの」データもありません。痩せ細る治水予算からお金を捻出して「改善」しなければならない「河川環境の被害」そのものが存在しないのです。(4頁に続く)

長良川に徳山ダムの水は要らない 緊急市民学習会

基調講演: 「長良川的环境改善」ってホント?

講師 向井貴彦 岐阜大学准教授 (専門: 魚類生態学)

その他: 導水路建設をめぐる情勢の報告、討論会など

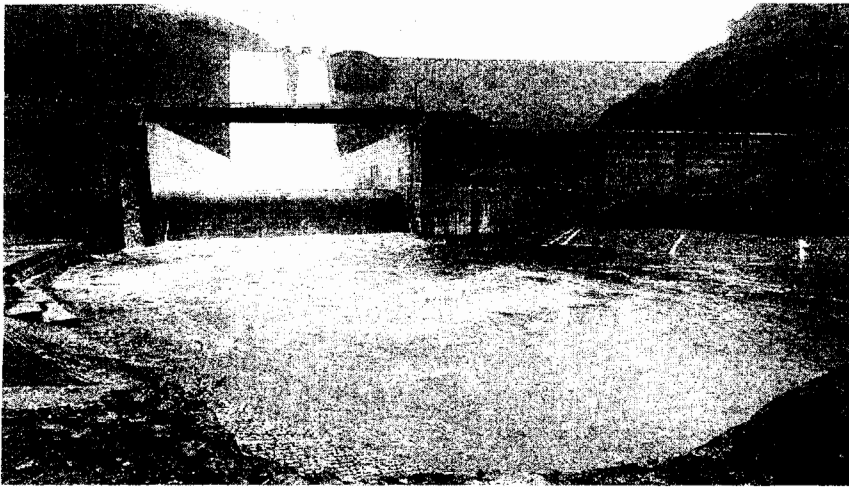
日時: 6月3日(火) 18:30~20:45

場所: ハートフルスクエアG大研修室 (JR岐阜駅をそのまま東へ)

貯水量国内最大

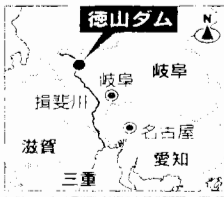
徳山ダム 試験放流開始

来月にも 本格稼働 構想から半世紀



貯水量が国内最大となる岐阜県揖斐川町の徳山ダムで、運用開始前の最終段階となる試験放流が二十四日午前、始まった。徳山ダムを管理する水資源機構は安全性を確認したうえで、五月上旬にも本格稼働する。構想から半世紀を経て、巨大な水がめがようやく表舞台に姿を現す。

強い風雨のなか、サイ音を最大で毎秒二百立方センチとともに午前七時、ダムにコントロールし、水非常用洪水吐ゲートが二位が一口一層以上、下が門開き、水が勢よく流らないう放流する。ゲートは非常用四門、常用二門の計六門あり、午後には残りの非常用一門も開く予定。水資源機構は全体の放水



試験放流が始まった徳山ダムの入り口。岐阜県揖斐川町。

二十四日午前記者会見した水資源機構の日野 見した水資源機構の日野 造一、徳山ダム管理所長は「岐阜県、愛知県、名古屋市や、先祖伝来の土地を提供してくれた旧徳山村の住民には心から感謝申し上げる」と述べた。

試験放流は同ダムの貯水率が一〇〇%になったことを受けて実施。十一、二十日にかけて水位を下げながら、ダム斜面の上砂崩れの状況や放流ゲートの操作などを確認。梅雨や台風に備え、十月十六日まで三百九十一層の水位を維持しながら本格運用に移る。

徳山ダムの貯水量は六億六千万立方メートル、満水になるのに時間がか湖の二倍の容量。総事業費は三千三百五十一億を要する。利水(洪水対策)、治水(水道・工業用水)、発電などの多目的ダムで、一九五七年に構想がたてられたが、その後利水や発電需要が減少。当面は、主に治水対策に利用されるが、日野所長は「連絡水路や発電所に早期完成を願っている」と話した。

ダム工事は二〇〇五年十一月に完了し、〇六年九月から強度などを調べる試験湛水(たんすい)に入っていた。水資源機構は当初、試験放流を今年三月中に終え、四月から本格運用に入る予定でいたが、雨や雪が少なく、満水になるのに時間がかかった。

「全村移転」という事態に、村では激しい反対運動が起った。ただ、村の唯一の産業だった木炭が衰退、若者の村離れも進み、「村の未来が描けなくなっていた」。補償金に魅力を感じた村民は「ダム建設は、渡りに船とも感じられた」。

七二年、旧村民らは徳山ダム対策委員会を設立し、水資源開発公社(現水資源機構)との補償交渉が始まった。故郷を失った住民は、将来の安定した生活補償を強く要求。交渉は長引き、補償額の算定基準が合意に達したのは十一年後だった。

大牧さんは八四年に個人補償に調印し、翌八五年、同じ集落の約二十帯の村民と一緒に離村した。八九年三月には全村の移転を出した。

「全村移転」という事態に、村では激しい反対運動が起った。ただ、村の唯一の産業だった木炭が衰退、若者の村離れも進み、「村の未来が描けなくなっていた」。補償金に魅力を感じた村民は「ダム建設は、渡りに船とも感じられた」。

七二年、旧村民らは徳山ダム対策委員会を設立し、水資源開発公社(現水資源機構)との補償交渉が始まった。故郷を失った住民は、将来の安定した生活補償を強く要求。交渉は長引き、補償額の算定基準が合意に達したのは十一年後だった。

大牧さんは八四年に個人補償に調印し、翌八五年、同じ集落の約二十帯の村民と一緒に離村した。八九年三月には全村の移転を出した。

ダムの底に沈んだ旧徳山村 元村民、思いは複雑

ダム上流部に当たる山に沈んだ村への郷愁は深く予定はない。徳山村では村民約千五百人が世帯移転を余儀なくされるなど、ダムの建設計画に、翻弄(ほんろう)され続けてきた。ダム底に沈んだ旧徳山村の元村民、思いは複雑。

「底に村が沈むダムを、真、周囲の山の稜線(りやうせん)だけが思い出るのはいづれ。元徳山村民の大牧富士夫さん(79)は、二十四日から始まった試験放流を見に、旧徳山村で林業を営む。故郷を失った住民は、将来の安定した生活補償を強く要求。交渉は長引き、補償額の算定基準が合意に達したのは十一年後だった。

大牧さんは八四年に個人補償に調印し、翌八五年、同じ集落の約二十帯の村民と一緒に離村した。八九年三月には全村の移転を出した。

余る水へ負担1500億円



「地下水に頼っていて大丈夫ですか」

「水質汚濁や地盤沈下の恐れもありますよ」

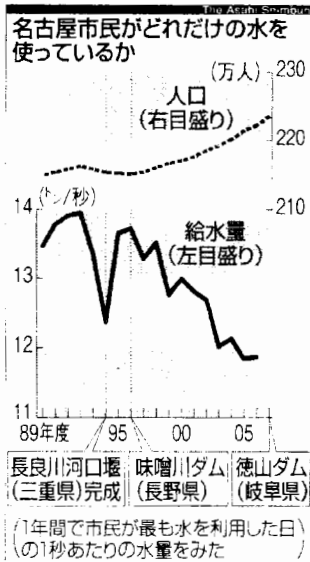
昨年11月、岐阜県大垣市の地下水の水質検査結果を市役所に伝えに来た岐阜県職員がしきりに口にしたのは水源の不安話だった。

大垣市の水は「水都」といわれるほど折り紙つきた。近年は目立った地盤沈下もない。対応した市職員は不思議に感じながら、県職員の意図

■徳山ダムの3県1市負担額

	都市用水	洪水対策	計
愛知県	189億円	68億円	257億円
岐阜県	275億円	438億円	713億円
三重県	—	101億円	101億円
名古屋市	206億円	—	206億円

注：3500億円の事業費のうち、の地元負担。水資源機構試算



にピンときた。遠回しに徳山ダムの水を買って欲しいという「営業」だ。

「水は足りてます」。そう答えると、県職員は徳山の名前も出さず帰ったという。

徳山ダムの水を都市用水に使う愛知、岐阜両県と名古屋市は28年かけ、その分の負担金として金利を含め1500億円をダムを造った水資源機構に支払う。だが3自治体が都市用水に確保した毎秒6.6のうち、使途が決まっているのは名古屋市が工業用水に使う0.7しかない。

最も水利利用を見込んでいた岐阜県は西濃地域での活用を当て込み、05年度から毎年2市9町やメーカー6社に意向を聞いているが、どこも手は挙がらない。このまま負担が

膨らむと、やがて県民や市民に跳ね返りかねない。

徳山ダムの計画に大きな誤算だったのは全国的な水需要の減少だ。

日本水道協会によると、事業用などを含めて1日に人口1人あたりが使う平均的な水の量は90年に39.4リットルだったのが、05年には36.3リットル。メーターは洗濯機や便器でも節水能力を競い、一豊かになるほど水使用量が増える」という常識は崩れている。

誤算はもうひとつある。徳山ダムは発電用の目的もあるが、電力需要の伸びは鈍ったままだ。徳山ダムの建設費を負担してきたJパワー(電源開発)から発電の権利を500億円前後で引き継ぐ中部電力は、これから発電所の建設にかかる。巨額の負担をさらに強いられる。

★ 徳山ダム試験放流開始 (4月22日) 声明:

祝福されることなき試験放流—「完成」

1. 水源開発施設・徳山ダムの破綻—目的をすり替え続けたダム
2. 徳山ダムの「洪水調節」効果のまやかし
3. 異常渇水対策という「治水」—無駄と環境破壊を積み上げる導水路
4. イヌワシ・クマタカを頂点とする生態系を不可逆的に改変している
5. 問題は発生し続け、次代へのツケは増え続ける

★「本格運用」開始 (5月5日)

命・安全を買った 評価は30〜50年後

徳山ダムは5日午前1時39分に放流試験を終え、完成した。建設を一貫して推進し続けた岐阜県の梶原拓・前知事が東京都内で朝日新聞のインタビューに応じた。主な内容は以下の通り。

——洪水対策なら河川改修ですむという見方があります

「その人たちは洪水が起きたときに責任をとってくれるのか。安

梶原前岐阜知事 インタビュー

全を守るにはダムしかない。時勢に迎合するやからもいたが、知事はパフォーマンズすべきでない」

——水の需要は減り、都市用水の活用は必要性が低い。計画を縮小する見直しはできたのでは

「異常気象や地球環境の変化で、水は将来大きな問題になる。だから利水も大切だ。多すぎると言われた農業用水も必ず再評価され

る。食糧問題、自給率の低さが日本ほど問題になっている国はない」

——しかし、岐阜県を含む2県1市は都市用水としての利用計画を04年に縮小したではありませんか

「長期のことはなかなか数字に出せない。そのため、水利権を少なくして合理的な説明するのはやむを得なかった。水道事業をやっている人は自先の収益を考える」

——完成までに半世紀かかります

「もっと工期を短縮すべきだった。ただ、目的が治水なのだから揖斐川下流の安全がどの程度守られるか、そこがダムの評価のわれ目だろう。善しあしの判断は30年〜50年後になる」

——建設費の負担が地元自治体に重くのしかかります

「命と安全をお金で買っている。高いか安いかは主観の差があるが、必要な負担はやむを得ない」

本来の目的がしぼむなか、水資源機構がしきりに宣伝するのは洪水対策だ。だが、洪水対策で効果があると言われる大垣市に住む安保千春さん(68)はダムに冷ややかだ。

02年に300戸以上が床上浸水した「荒崎水害」被害者のひとり。対岸の市中心部側などを守るため、近くの川の堤防の一部は低く、そこから

水があふれ出た。県は49億円かけて部分改修したが、まだほかより1割低い。「欠陥」があるのに、年間68億円の河川改修費しかない岐阜県は、なかなか予算を回せない。

「ダムのむだなカネがどんどん明らかになってきているのに、なぜ放ったままなのか」安保さんは憤る。

(伊藤智章、岡本洋太郎) 阿部英明

とあるインタビューに対して答えました：「徳山ダムは今も『問題』を発生し続けています。人々があの巨大なダムを見たとき、自分たちに、そして子孫に大きなツケが回ってきていることを感じ取って欲しい。同時に失われたものの記憶もなくしてはいけません。徳山ダム建設事業が続いたこの半世紀で、何を失い、どんな問題を発生させたのか、一人一人の記憶にとどめることで、同じ過ちを繰り返さないことの礎にする、新たな問題の発生を食い止める、そうした活動を続けていきます。」(近藤ゆり子)

★ 木曾川水系河川整備計画策定 (3月28日)

声明：木曾川水系河川整備計画策定を憂う

- (1) 予告通りの「1997年河川法改正の趣旨を蹂躪する」整備計画策定
- (2) とにかく予算をつけれ！の「木曾川水系連絡導水路」

☆「長良川に徳山ダムの水はいらない」市民学習会 実行委員会(略称:長良川市民学習会)に関する情報

- ◇ 3月23日シンポジウム
参加者 110名 News創刊号発行
- ◇ 4月22日 木曾川上流河川事務所と交渉
■「第4回木曾川水系連絡導水路環境検討会」(中部地整/於:岐阜市) …4回目にして初めて公開
- ◇ 4月29日 現地見学会
(長良川中流域を視る)
- ◆ 5月19日(14:00～)
木曾川上流河川事務所&中部地整河川部と交渉
- ◆ 5月21日(18:30～)
実行委員会
(ハートフルスクエアG中研修室)
- ◆ 6月3日(18:30～) 緊急学習会
(1頁参照) News第2号発行予定
- ◆ 6月8日 水環境全国一斉調査

長良川市民学習会はオープンなものです。上記の予定に参加ご希望の方、またニュースの購読をご希望の方は、事務局長・武藤仁さん Tel : 090-1284-1298 にご連絡下さい。

河川整備計画を決定

徳山ダム 導水路も 木曾川水系で国交省
国土交通省中部地方 斐川町)にためた水を整備局は二十八日、木曾川水系の今後三十年の河川整備目標などを定める河川整備計画を正式に決めた。
利水対策では、揖斐川上流の徳山ダム(揖斐川)の治水対策は、戦後に発生した最大規模の洪水にも対応可能な河川整備を行い、長良川

は、美濃市からの下流域で洪水時に水をためる初の遊水地を造る。関係する県知事から出された意見では、岐阜県は二〇〇八年度の善工を目指す導水路事業について、今後の環境調査で長良川の水質などに影響が判明した場合、対策が講じられるまで工事に入らないよう求めた。県は費用負担の軽減などを要請した。
(石川浩)

08.03.30 中日新聞
河川整備計画 批判し声明文
徳山ダム反対派
徳山ダム建設中止を求める会(大垣市、近藤ゆり子代表)は二十九日、国土交通省中部地方整備局が前日に公表した「木曾川水系河川整備計画」について「今後の全国の河川行政に禍根を残す」と批判する声明文を発表した。
同計画は揖斐川上流

08.03.29 中日新聞
の徳山ダム(揖斐川)の水を木曾川、長良川に流す連絡導水路事業など、木曾川水系の今後三十年の河川整備目標を示した。
声明文では、連絡導水路事業について「大きな影響を受ける岐阜市民(岐阜市議会)には説明がなく、結論ありきで拙速だった」と批判。住民意見の反映の場として同整備局が設けた「ふれあい懇談会」にも「短時間で内容は低水準」などと住民への周知不足を指摘した。(坂田奈央)

<「徳山ダム建設中止を求める会」運営委員会から>

振込用紙を同封します。「あるとき払い」で結構です。会費・カンパをお願いします。
新しいHPを立ち上げるべく奮闘中です。お知恵を頂けるとありがたいです。このHPに載せるべく「やめよ！徳山ダム」のバックナンバーのPDFファイル化を試みています。

「やめよ！徳山ダム」 徳山ダム建設中止を求める会 代表：上田武夫

編集責任：近藤ゆり子 事務局 〒503-0875 大垣市田町1-20-1
TEL/FAX 0584-78-4119 Email: k-yuriko@octn.jp
郵便振替：00800-7-31632 年会費 2000円

ダムの水 どう機能

治水、利水に課題残す

巨大ダム 濁水

上

二十四日、試験放水が始まった揖斐郡揖斐川町の徳山ダム。水資源機構は、揖斐川流域の治水効果を強調するが、新規利水事業はなく、発電施設の完成も数年後。徳山ダムは、建設費約三千三百五十億円の巨費に見合った効果をいつ発揮し、どう水を生かすのか、課題を積み残したまま、徳山ダムは早ければ五月初旬にも本格運用に移行する。(瀬見井秀信)

「徳山ダムが治水に役立つかどうかは、あと数年もしないうちに実証されるだろう」。徳山ダムの試験放水が始まった二十四日、ダムサイトが見物客でにぎわう一方、揖斐川下流の大垣市島町の中原さん(60)は、自

果があったのかを検証。右側負担は十九億七千三百五十億円に上る。ダム効果の発揮はいつからか、負担はいつかとのしつかり。揖斐川は「西濃圏域」で地下水が使用できないようになった。必要に備えて水資源確保は必要と、将来を見据えた利水の必要性を唱える。

国交省や県に抗議の声明文 建設中止を求める会 徳山ダムが試験放水を開始したのを受け、徳山ダム建設中地を要求する会(上田武代表)は二十四日、試験放水開始に抗議する声明文を国交省や同ダム管理所、県などにメールで送付した。

水資源機構は、徳山ダムの洪水調節機能に「大垣市万石地」

「一般会計から出さざるをえない」「(岐阜県河川課)と担当者は頭を抱える。また、ダムの水を木曽川や長良川に流し、愛知県や名古屋市が利用できるようにする導水路を建設する計画もある。事業費は890億円で、3県1市の負担はさらに480億円増える。現在、導水路の建設場所確定に向けて調査が進められ、国土交通省中部地方整備局は15年度の完成を目指しているが、市民団体から「ダム湖の水は水温が低く、生態系に影響が出る」との批判が出て、中部地整は長良川では支流に放水する案も検討している。

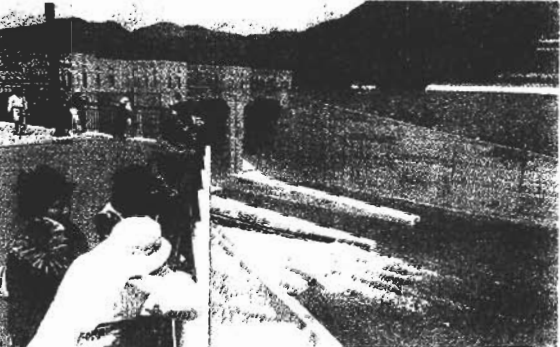
徳山ダム本格運用

課題山積のまま

徳山ダム(岐阜県揖斐川町)は4日午後11時現在、貯水位39.02メートルに本格運用の水位(39.1メートル)に近づいている。同日、ダム湖をばらばらにしている。同日、ふんだん水を流した。約1500人の故郷を奪った徳山ダムだが、利水の見込みはなく、愛知、岐阜、三重3県と名古屋市は苦しい財政の中、巨額の事業費負担を続けなければならないなど、さまざまな課題をはらんでいる。

一方、岐阜県では、簡易水道から上水道への切り替えが進んだことから水道水の給水量は微増。しかし、流域の西濃地区の自治体は揖斐川に取水口を設置していない。同地区の地下水利用対策協議会(1708社)によると、使用する上水はほぼ地下水で、1日平均使用量は約24万トンと01年以降はほぼ横ばい。同協議会の担当者は「地下水ははきれて水温が一定。半導体の洗浄などを行う西濃地区の企業に不可欠で、ダムや川の水には替えられないのでは」と話す。

「一般会計から出さざるをえない」「(岐阜県河川課)と担当者は頭を抱える。また、ダムの水を木曽川や長良川に流し、愛知県や名古屋市が利用できるようにする導水路を建設する計画もある。事業費は890億円で、3県1市の負担はさらに480億円増える。現在、導水路の建設場所確定に向けて調査が進められ、国土交通省中部地方整備局は15年度の完成を目指しているが、市民団体から「ダム湖の水は水温が低く、生態系に影響が出る」との批判が出て、中部地整は長良川では支流に放水する案も検討している。



本格運用直前の徳山ダムをのぞく人々

- 1957年12月 国が揖斐川上流域を水源開発促進法に基づく調査区域に指定治水、利水を含む多目的ダムとして実施計画調査開始
- 71年4月 国がダム事業実施計画を認可水資源開発公社と徳山村が公共補償協定締結
- 76年9月 徳山村を廃村、藤橋村に合併
- 86年3月 旧徳山村全466世帯の移転契約が完了
- 87年3月 区、学者や首長、議員による「ダム建設事業審議委員会」設置審議委員会が早期完成を答申
- 97年2月 国が未買収地強制収用を認定反対派住民がダム事業認定取り消しなどを求めて提訴(1、2審とも住民側敗訴、上告棄却)
- 2000年3月 本県収用委員会が強制収用裁決水資源機構が1010億円の事業費増に同意
- 01年5月 木曽川への導水路計画公表
- 03年8月 木曽川への導水路計画変更認可
- 03年11月 木曽川への導水路計画変更認可
- 04年7月 木曽川への導水路計画変更認可
- 06年9月 木曽川への導水路計画変更認可
- 08年4月 木曽川への導水路計画変更認可

地元負担2000億円

利水分約20億円ずつ23年間

ダムの総事業費は851億円で、11年度までに年々2540億円と見込まれたが、環境対策などを理由に03年に960億円増額され、最終的には3350億円に達する見通し。

国負担分1733億円、発電事業を担当する中部電力、Jパワーの負担額は811億円で、取水設備す

移転した48戸分の跡地の一部をインターネット上で売り出した。跡地約2万4000平方メートルの利用方法は決まっていない。

文殊地区に住む女性(66)は「再移転した人たちは交流がなくなりました」と悲しむ。

【鈴木敏】

